

ZEPHYROS

ゼフュロス No.78

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

2019年2月20日発行

ISSN1342-8071



国立西洋美術館開館60周年記念

ル・コルビュジエ

絵画から建築へーピュリスムの時代

会期：2月19日（火）～5月19日（日） 本館

企画展「国立西洋美術館開館60周年記念

ル・コルビュジエ 絵画から建築へーピュリスムの時代」



シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレ（ル・コルビュジエ）
《エスプリ・ヌーヴォー館の静物》
1924年 油彩/カンヴァス 81×100cm
パリ、ル・コルビュジエ財団
©FLC/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 B0365

2019年に、国立西洋美術館は開館60周年を迎えます。また、本館の設計者であるル・コルビュジエがパリで「ピュリスム（純粋主義）」という芸術運動を始めてから、ちょうど100年目がたちました。この二つの節目を記念して企画された今回の展覧会は、1918年から1925年までにわたるピュリスムの時代を中心に、スイス出身の青年建築家シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレが近代建築の旗手ル・コルビュジエへと飛躍をとげるまでの約10年間の歩みをたどります。

ジャンヌレは1917年に故郷スイスの小都市を離れ、芸術の中心地パリへ移りました。第一次世界大戦の終結後まもない1918年12月、

彼は画家アメデ・オザンファンとともに小さな絵画展を開き、ピュリスムという旗印のもとで芸術の刷新を訴えます。近代文明を支える科学が法則に基づくように、芸術にも確かな規則が必要だと彼らは主張しました。さらに、2人は1920年に雑誌『エスプリ・ヌーヴォー（新精神）』を創刊し、近代的な「構築と総合の精神」を芸術と生活のあらゆる分野に広めることを提唱します。「ル・コルビュジエ」という名前は、ジャンヌレがこの雑誌に建築論を発表する際のペンネームとして使わ

れたものです。

ピュリスム時代のル・コルビュジエは、オザンファンとともに絵画制作に取り組みながら、新しい建築の創造へ向かいました。彼は普遍的な美の源泉が立方体や円筒形などの幾何学形態にあると考え、それらの純粋な形による調和と秩序の芸術をめざします。とくに、ピカソ、ブラック、レジェ、グリズ、リブシッツらのキュビズムの絵画・彫刻は、彼に強い影響を及ぼしました。ピュリスムの運動は1925年に終わりますが、パリの美術界の創造的な環境に身を置き、第一線で活動する芸術家たちと交流した経験は、ル・コルビュジエの大きな糧となりました。建築は芸術であり、



ル・コルビュジエ
「エスプリ・ヌーヴォー館」(1925年)
Musée des Arts Décoratifs, Paris ©MAD, Paris



シャルル=エドゥアール・ジャンヌレ (ル・コルビュジエ)
《暖炉》1918年 油彩/カンヴァス 60×73cm
パリ、ル・コルビュジエ財団
©FLC/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 B0365

感動を呼びおこす造形に達してこそ建物は「建築」になるのだと、彼はピュリスムの時代から生涯を通じて訴え続けます。

ご承知のとおり、国立西洋美術館本館は、2016年に「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」の構成資産のひとつとして、ユネスコ世界文化遺産に登録されました。今回の展覧会は、通常はオーロド・マスター絵画の常設展示に使われているこの建物を会場として開催されます。ル・コルビュジエの建築空間と、彼に多大な影響を与えた1920年代パリの美術界を代表する芸術家たちの作品との共演から、彼が提唱してやまなかった「近代の精神」を感じていただきたいと思います。

(国立西洋美術館副館長 村上 博哉)



ル・コルビュジエ
「サヴォワ邸」(1928-31年)

表紙

シャルル=エドゥアール・ジャンヌレ (ル・コルビュジエ)
《多数のオブジェのある静物》1923年 油彩/カンヴァス 114×146cm
パリ、ル・コルビュジエ財団
©FLC/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 B0365

ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代

- 一般 1,600円 (1,400円)
- 大学生 1,200円 (1,000円)
- 高校生 800円 (600円)
- *中学生以下、心身に障害のある方および付添者1名は無料(入館の際に学生証・障害者手帳をご提示ください。)
- * ()内は20名以上の団体料金
- *本展会期中、常設展は新館展示室のみで開催されます。世界遺産に登録された本館展示室をご覧いただくには、本展観覧券が必要となりますのでご注意ください。
- *本展の観覧券で常設展も併せてご覧いただけます。

小企画展「林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商」



「林忠正ポートレート（ケラン邸のパルコニーにて）」
1900年頃 個人蔵



アンリ・リヴィエール「林忠正宛葉書」1905年6月14日
個人蔵

当館の松方コレクションを作り上げた松方幸次郎は、1910年代後半に日本に美術館が必要と考え建設を志したのですが、じつはそれより25年も前に、同じ考えを持った人物がいました。パリで活躍した美術商、林忠正（1853-1906）です。

幕末の高岡（現富山県）に生まれた林は、東京で大学教育を受けますが、1878年のパリ万国博覧会で日本展示の通訳を探していると聞き、渡仏します。博覧会後は残った商品などを売りさばいているうち、やがて自分の店を持ち、当時人気が高まっていた日本美術品を商って成功を収めます。林の商売は、日本からじかに工芸品や絵画、浮世絵などを輸入し、それを文献に基づいた詳しい説明付きで売るというやり方で、他の西洋人美術商とは一線を画していました。また、彼は西洋における美術館の文化的役割を理解し、商品である浮世絵や工芸品と交換に、印象派などの美術家たちの作品を手に入れ、日本での美術館建設を夢見て少しずつコレクションを充実させてゆきました。

1900年パリ万博では、日本側事務官長という大役に、民間から初めて抜擢され、浮世絵だけでない古美術の歴史的展示を行うなど、日本美術の紹介に努めました。しかしその後、1902・03年の売り立てで所蔵していた日本美術・工芸品を処分し、1905年に帰国しますが、間もなく病を得て、翌年には美術館建設という夢を叶えられないまま世を去ることになります。彼の500点を超える西洋美術コレクションは、主要なものは1913年にニューヨークで売り立てられ、残ったものも遺族によって処分されてゆきました。

本展は、林忠正の孫の夫人で歴史作家の木々康子氏の所蔵品を中心に、I. 修業時代—西洋との出会い II. 画商として—万国博覧会の時代 III. 華麗なる交友—ジャポニズムの拡がり IV. コレクションの行方 の4章に分けて、林忠正の生涯にわたる活動を概観するものです。本展が、美術・工芸品を介して日欧の文化交流に尽力した林の功績を再考する機会となれば幸いです。

（国立西洋美術館長 馬淵 明子）

常設展（本展は常設展料金でご覧いただけます）

一般 500円（400円）

大学生 250円（200円）

*小・中学生・高校生および18歳未満、65歳以上、心身に障害のある方および付添者1名は無料
（入館の際に学生証または年齢の確認できるもの、障害者手帳をご提示ください。）

*（ ）内は20名以上の団体料金

国立美術館の所蔵作品検索システムが新しくなりました

オルセー美術館所蔵のゴッホ《アルルの寝室》はある時期、日本人のコレクター松方幸次郎が所蔵していたことがあります。こういった美術品などの過去の所有者を追跡調査し、それについてまとめた履歴のことを来歴といいます。

来歴は美術館やアート市場にとって軽視することのできない情報です。今日、来歴の曖昧な作品が売りに出ても、賢い買い手は近づきません。素性が知れず、略奪品でないという保証がないからです。しかし過去はどうだったのでしょうか。いま、海外の美術館は、過去に収集した作品の来歴調査と情報開示への対応を求められるようになってきています。

そこで2018年11月、独立行政法人国立美術館は所蔵品検索システムを改良し、作品の来歴・展覧会歴・掲載文献を開示できるようにしました。同システムは当館および東京国立近代美術館・京都国立近代美術館・国立国際美術館の所蔵品を一括検索可能にしたもので、立ち上げは10数年以上も前のこと。その後当館は当館サイト



梅原龍三郎から国立西洋美術館に寄贈されたルノワール《横たわる浴女》

で来歴を公開してきましたが、このたび法人全体でその公開に取り組むことになりました。デジタルアーカイブという文脈で来歴を扱う先端事例の一つと言えるでしょう。

海外で来歴が重視される背景には、戦時中の略奪品ということはないのか、正当な所有権は誰にあるのかという問題意識があります。とはいえ法的権利だけを問題にしているわけではありません。たとえば洋画家の梅原龍三郎は所蔵する西洋美術工芸品や自作の肖像画を東京と京都の国立美術館3館に寄贈しました。将来データが充実すれば、こうした情報へのアクセスも可能になり、国立美術館コレクションの歴史的厚みも見えるようになるでしょう。今回公開された情報は一部にすぎませんが、今後さらに充実を図っていく予定です。

(国立西洋美術館情報資料室長 川口 雅子)

独立行政法人国立美術館
www.nipponmusei.go.jp

ルノワール、ピエール＝オーギュスト 1841 - 1919
RENOUIS, Pierre-Auguste

作品詳細

横たわる浴女
1906年 油彩・カンヴァス 54.8 × 65
右に七喜名
1949年 梅原龍三郎氏より寄贈 寄贈 P.1974-0002
国立西洋美術館

絵画:

Reclining Woman Bathing
1906 oil on canvas, 54.8 × 65
Signed lower right: Renouir
P.1974-0002
The National Museum of Western Art, Tokyo

Paintings:

作品画像

画像をクリックすると、拡大して表示されます。

来歴

Marborough Fine Art, London; Wildenstein, London; Fischer Fine Art, London; Yayoi Gallery, Tokyo; Donated by Mr. Ryuzaburo Umetahara, Tokyo, 1974

展覧会歴

1950 19th and 20th century European masters, Marborough Fine Art, London, 1959/0/0 - 1959/0/0, cat. no. 61, repr. p. 31

1963 A ban exhibition of the French Impressionists and some of their contemporaries, in aid of the National Playing Fields Association and the Jewish National Fund, Wildenstein, London, 1963/4/24 - 1963/6/7/6, cat. no. 63, repr. p. 2

1979 (寄贈) 松方コレクションを中心とした国立西洋美術館名品展、大分県立芸術会館、大分、1979/12/20 - 1979/7/29, cat. no. 16

国立美術館の所蔵作品検索システム画面

EVENT イベント

ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代

展覧会に関連して次のプログラムを実施いたします。ぜひご参加ください。

● 講演会

日 時: **3月9日(土) 14:00~15:30**

村上 博哉 (国立西洋美術館副館長・学芸課長)

「ル・コルビュジエとラウル・ラ・ロシュ —ピュリスムの戦友」

日 時: **4月6日(土) 14:00~15:30**

加藤 道夫 (東京大学大学院教授)

「建築=芸術へ —アクロポリス、初めてのタブロー 《暖炉》、《ドミノ住宅》に遡行する『建築へ』の体系的読解」

日 時: **4月20日(土) 14:00~15:30**

林 美佐 (大成建設ギャラリー・タイセイ 学芸員)

『『ピュリスムの時代』の先 —ル・コルビュジエの絵画の変遷』

日 時: **5月18日(土) 14:00~15:30**

山名 善之 (東京理科大学教授)

「建築へ —絵画の平面性からの透明性の探求」

会 場: 国立西洋美術館講堂 (地下2階)

定 員: 各回先着 130 名 (聴講無料。ただし、聴講券と本展の観覧券 (半券可) が必要です。)

参加方法: 当日 12:00 より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚聴講券を配付します。会場へは開演の 30 分前からご入場いただけます (整理番号順)。

● スライドトーク

展覧会のみどころや主な作品について、スライドを使って説明します。

日 時: **3月22日(金)、4月5日(金)、4月19日(金) 各回18:00 ~ (約30分)**

会 場: 国立西洋美術館講堂 (地下2階)

解 説 者: 久保田 有寿 (国立西洋美術館特定研究員)

定 員: 各回先着130名 (聴講無料。ただし、本展の観覧券 (半券可) が必要です。)

参加方法: 直接講堂にお越しください (開場時間は各日とも開演の 30 分前)。

※講演会、スライドトークのタイトル・内容等は変更となる場合があります。

最新の情報は国立西洋美術館ホームページまたはハローダイヤル (03-5777-8600) でご確認ください。

Museum Shop ミュージアムショップ

新商品

『ミニプレート』

Sサイズ・Lサイズ
各2種類「初期全体計画案」・「散策広場」

サイズ:S 7.5×7.5cm L 10×10cm
主成分:炭酸カルシウム、二酸化珪素
価格:S 972円 L 1,080円(税込み)



ル・コルビュジエの国立西洋美術館の設計意図をまとめたアルバムに収められたスケッチを使って、小さなプレートを作りました。スケッチは彼自身の手によるもので、敷地を俯瞰した「初期全体計画案」とメインアプローチからの美術館全景「散策広場」の2種類。

プレートは貝殻と同じ成分の自然に還る素材からできており、水分の吸収もよく、コースターに最適です。小物を置いたり、そのまま飾ったり、ル・コルビュジエの建築のエッセンスを身近に楽しんでもらえる商品です。

Café カフェすいれん

「ル・コルビュジエ 絵画から建築へーピュリスムの時代」 特別メニュー

期間 2月19日(火)～5月19日(日)

●ル・コルビュジエゆかりの地巡り

(1日20食限定) 1,980円(税込み)
セット内容:サラダ、パンまたはライス、デザート、ソフトドリンク

ル・コルビュジエゆかりの地であるスイス・ギリシャ・フランスの郷土料理をプレートに盛付しました。スイスからはカルピオーネ(洋風南蛮漬け)、ギリシャからはムサカ(ナス・ミート・ポテトの重ね焼き)、フランスからはチキンのコンフィ(オイル煮)をお楽しみ下さい。



チケット売場、館内施設(常設ミュージアムショップ、カフェすいれん)でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。(ただし、一部除外品がございます。)詳細については、当館ホームページをご覧ください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示]

2019年2月～7月

休館日 土・日・祝日

FEB	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28									
2	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木									
全館休館 1月21日(月)～2月18日(月)										ル・コルビュジエ 絵画から建築へバウハウスの時代 2月19日(火)～5月19日(日) (本館) 林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商 2月19日(火)～5月19日(日) (版画素描展示室)																											
MAR	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
3	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日						
国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へバウハウスの時代 2月19日(火)～5月19日(日) (本館)										林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商 2月19日(火)～5月19日(日) (版画素描展示室)																											
APR	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							
4	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火							
国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へバウハウスの時代 2月19日(火)～5月19日(日) (本館)										林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商 2月19日(火)～5月19日(日) (版画素描展示室)																											
MAY	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
5	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金						
ル・コルビュジエ 絵画から建築へバウハウスの時代 2月19日(火)～5月19日(日) (本館)										林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商 2月19日(火)～5月19日(日) (版画素描展示室)																											
										全館休館 5月20日(月)～6月3日(月)																											
JUN	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							
6	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展 6月11日(火)～9月23日(月・祝) (企画展示室)										モダン・ウーマン—フィンランド美術を彩った女性芸術家たち 6月18日(火)～9月23日(月・祝)																											
常設展一部(新館)閉室 6月4日(火)～6月10日(月)										常設展一部(新館2階)閉室 6月11日(火)～6月17日(月)																											
JUL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
7	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水						
国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展 6月11日(火)～9月23日(月・祝) (企画展示室)										日本・フィンランド外交関係樹立100周年記念 モダン・ウーマン—フィンランド美術を彩った女性芸術家たち 6月18日(火)～9月23日(月・祝) (新館展示室内)																											

●臨時閉館・全館休館・一部閉室のお知らせ

- *3月25日(月)は開館します。
- *5月20日(月)～6月3日(月)は展示替えのため全館休館します。
- *6月4日(火)～6月10日(月)は展示替えのため新館を閉室します。
- *6月11日(火)～6月17日(月)は展示替えのため新館2階を閉室します。

●常設展示

ロダンやブールデルの彫刻と中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。
※「ル・コルビュジエ 絵画から建築へバウハウスの時代」会期中、常設展は新館展示室のみで開催されます。(展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

※展覧会名、会期、展示内容等は変更されることがあります。

※作品の保存・貸し出し等の状況により、掲載された作品をご覧いただけない場合がございます。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間…午前9時30分～午後5時30分
金曜・土曜日 午前9時30分～午後9時
毎月最終金曜日は、午前9時30分～午後10時
- 常設展開室時間…午前9時30分～午後5時30分
金曜・土曜日 午前9時30分～午後8時
毎月最終金曜日は、午前9時30分～午後9時
- 企画展開室時間…午前9時30分～午後5時30分
金曜・土曜日 午前9時30分～午後8時
- *入室は閉室の30分前まで

- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)
*その他、臨時に休館することがあります。

- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600

<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまだまの花々を運び春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第78号

編集・発行 国立西洋美術館/2019年2月20日(年4回発行)
協力 公益財団法人 西洋美術振興財団
印刷 (株)アイネット